

NISHIME
Laboratory

Vol.2

松本学
マツモトマナブ— 発行日 —
2024年10月— 発行 —
マツモトマナブ
サポーターズ— お問合せ —
由利本荘市西目町
沼田字新道下 512-8

☎ 090-4848-2290

manabu@matsumotomanabu.com



討議資料

令和6年9月定例会から見る市政と議会

「お前のやりたい事ってのは、あれだな、市議会議員にでもなつてやるもんだな」

あーでもない、こーでもない。イベントを主催してみたり、会社を作ってみたり、ただガムシヤラにまちづくり事業に没頭する私を見かねた大先輩の助言が、今思うと市議会議員という仕事へ向かうきっかけでした。

「へー、市議会議員っていう仕事があるのか」そんな間抜けな走り出しから始まった私にとって、議員の実際の仕事は当選後に初めて内容を

知るものがほとんどでした。そして議員の仕事への理解を深めると同時に、市政の成り立ち、様々なルールとルール作りの手順などを知る事で、誰もがまちづくりに参加出来る仕組みがす

でに在るという事、かつての私がそうであったように、多くの市民がその事を知らずにただ漠然と不満を持ったり、自分達には何もできないと諦めたり、ひいては町の未来を悲観し、本来子供達を希望の光を持って未来へ導く役割を持

つ大人達が下を向いてしまったりしている。もちろん政治だけがまちを創り上げているわけは決して無いし、学校教育だけが子供達を育てているわけでもない。しかし、永い歴史の中で築きあげられた社会の決め事もまた、我々現代を生きる者達がより良く暮らしていくための道具である事を決して忘れず、その道具を理解し使いこなす事が、常に無限の選択肢を秘めた未来へ向かうべく最善の心構えでは無いだろうかと思

います。
常に時代は変化し続け、これまでの常識は明日の非常識、西目には西目の最善が。この地ならではの歩み方を研究する「西目ラボ Vol.2」2024年秋号の発行となります。

若松町10区B

由利本荘市議会議員 松本学

松本学（マツモト マナブ）プロフィール

- 1979年 旧本荘市生まれ、新山小学校、北中学校、由利工業高校を卒業
- 1998年 上京し音楽の専門学校へ進学、半年で中退し東京、秋田を拠点に音楽活動へ専念
- 2001年 鳥海山と出会い衝撃を受け帰郷、地元愛に目覚める
- 2009年 結婚を機に西目町に住み、その住みやすさにあつという間に西目の虜となる
- 2021年 2006年頃からまちづくり事業を始め、会社経営を経て市議会議員へ立候補



【市議会議員以外の活動】

鳥海山頂美術館、鳥海山木育推進センター、鳥海山遊育プロジェクト、(株)鳥海ライブ世話人、山岳ガイド、子育て支援団体ニューノーマル、鳥海高原元気創造研究会、イベント司会業、若松町体育部員、由利本荘市山岳救助隊員、鳥海山家守舎

市議会議員とは何者か

「議員とハサミは使いよう」

うまく道具を使いこなすには、その道具の仕様を知る必要があるし、その者が何者か知らなければ付き合えない。近年の日本の政治不信、無関心の根本は政治に対する無知と、それを招いた教育にある。なぐんて事も言ってられないので、こちらのコーナーでは前回に引き続き市議会議員の何たるかに迫り、皆さんと共にまちづくりを進めるにあたりヒントになるような内容を目指したいと思います。さて、今回は市議会議員の主な仕事の一つ、「委員会審査」とは何かについて、たつた今終わつたばかりの9月議会になぞらえながら掘り探ります。

第2章

「基本のキ」議会って何①委員会審査」

第1章「市民と市議会と市長の関係」に引き続き今回は議会について。3月と6月、そして9月と12月の年に4回ある議会は、大まかに一般質問と委員会審査という2本立てで構成されています。総務常任委員会、教育民生常任委員会、産業建設常任委員会の3つの委員会があり22名の議員がここに振り分けられます。現在私が所属するのは産業建設委員会。名称からも分かる通り産業、建設を中心に、農業や観光、ガス、電気、水道などの課も担当します。日程に応じ各課の担当者

議員が対峙し、各担当課より、今回であれば前回の6月議会後からこれまでに発生したお金の動き、議案や政策の内容の説明を受け、それを詳しく検討し、問題点や改善点の洗い出しを行い審査します。特に今回は7月8日、7月24日の豪雨被害の報告、復旧へ向けた様々な手順、予算の出处、負担の割合、かかる時間や手続き、市民への周知の方法などについての説明・対応を想定し、



崩れ落ちた秋田県道 285 号
冬師西目線



農地の真ん中に
散乱する巨木



崩壊する道路や水路
この先にある田んぼは
どうになってしまうのか？



私は事前に西目の豪雨被害地域をまわり、実際に目で見て確認をし、周辺農家の方々、被災された方々に直接お話を伺い、現状についての把握に努めました。実際に西目の河川、道路、田畑では甚大な被害があり、それぞれの被害に対する原因や対処法、今後の復旧の流れは、まさに西目地域特有の問題を抱えており、ただ資料や数値を眺めただけではわからないものばかり。実際に被災された方が何に困っていて、何を求めているのかをな

るべくまとめ、西目の議員として今回の委員会審査に向かいました。実際の審議の場では案の定、市の当局側と市民との考え方にはギャップがあり、そこには圧倒的な説明不足、お互いの認識の違い、そのことによる大きな溝が発生しているように感じられ、いくつかの質問を通じてその溝を埋め、これから復興に向かう道筋をみんなが納得し西目地域の未来につながるよう現状を伝えさせていただきました。

委員会審査とは、まさに市民の想い、実際の現状を当局側と共有しながら、執行されゆく政策が最大限市民に寄り添えるよう調整される場でなければなりません。その為にも、議員たるもの市民の代表として、直接見る事、直接話を聞くことの重要性を改めて感じられた今回の委員会審査となりました。大変お忙しい中、直接お話しさせていただいた皆様、誠にありがとうございました。

Report

説明会リポート

9月23日の夕刻、潟端公民館にて、前もってその周辺の住民宅へ紙面での案内があった説明会に参加しました。「蓄電池事業に関する説明会のご案内」その名の通り電気を貯めておく蓄電池を設置する事業である事はわかるが、一体西目で何が起こるのか？そんな気持ちで参加しました。正

直、参加後の今も全貌が明らかになった、という理解できたとは思えませんが、どうやら説明会の案内が事業予定地に近い所にしか配布されていないようなのでこの場を借りてレポートさせていただきます。

参加者は私の他に5名ほどで事業者側は3名、説明、質疑応答含め16時〜17時30分の1時間半ほど、説明会の内容については要約し以下箇条書きにて。

●社名ヘキサ・エネルギー合同会社（社会インフラ事業を開発、投資する100%アメリカの出資会社）

●事業は計画段階であり決定事項ではない（土地取得済米弁天前40・42、運転開始予定2028年12月）

●不安定な再生可能エネルギーを蓄電により安定的に需給調整する、非常時電源として使用可能

●考えられるリスクは騒音、火事（騒音はあらゆる方法で住宅に影響ないよう配慮、火事になりにくい材の使用）

質疑応答の時間には、住民へのリスクの追求はもちろん、「他の再生可能エネルギー事業のように地元貢献は考えているのか？あるとすればどのような形を考えているのか？」と質問しました。それに対し「考えている、様々な方法があると思うが、地元住民の皆さんと話し合いたい」という返答を得ました。そこで「近隣住民や町内会など、住民がその恩恵

を直接感じられるような地域貢献の形を模索して欲しい」という要望を届けました。

このように、我々の大切な西目の土地を利用する事業に対しては、我々自身が積極的に関わり合うことが、地域貢献の形を決めるにも、安全に事業を進めてもらう事にも繋がっていくのではないかと思います。今後も事業展開があるたびに説明会を開く、という約束もいただきましたので、今回説明会に参加できなかった皆さんも次回は是非参加し、思いや不安を事業者に共有していただきましょう。

「松本学は呼べば来る」企画

有志の勉強会や町内の会合の空き時間に、仲間内の集まりの余興に。テーマ（由利本荘市の現状、市政、議会、まちづくり、起業、鳥海山、遊び、子育て、教育）とおおよその時間（※注 予定より喋りすぎる傾向あり）、場所、ドレスコード（※注 T シャツ短パンで来る可能性あり）等お伝えください、全て依頼主のご要望、雰囲気づくりにお応えいたします。

講演依頼随時受付中！

当誌は自費発行であり、政務活動費は使用しておりません。自転車にて配達させていただいている関係で西目全域への配布は1ヶ月ほどかかる見込みです。「ご近所さんに配ってあげようか？」という方がいらっしゃいましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

配布協力をお願い

西目トピックス

令和6年8月31日

「由利本荘市総合防災訓練@西目会場」

年に一度行われる由利本荘市総合防災訓練が、今年は西目地域で開催されました。7月の梅雨前線停滞により、これまで経験したことのないような災害が起きた本市。特に由利地域、東由利地域、そして西目地域は大きな被害を受け、災害から1か月経った今（8月31日時点）も、ほぼ復旧には至っておらず、被害状況の正確な把握も完了していない状況です。そのような中での防災訓練が、西目地域で行われる事の意義は大きく、消防団の皆さんを中心に小学生や中学生、地域の皆さんの参加、協力のもと、各地で様々な状況を想定した訓練が執り行われました。

当日は、ドローンによる物資運搬、災害時の傷病者対応など、各ブースを見学させていただきました。その中で、B&G西目海洋センター駐車場に設置された自衛隊ブースで、来場者におにぎりを振る舞うコーナーを担当されていた「由利本荘市西目赤十字奉仕団」の皆さんの活動に注目し、後日その活動内容や役割、想いなどを、委員長の潟保博子さんに伺いました。

「山で何かあれば海の方で助ける、海で何かあれば山の方から。たとえ微力でも自分たちの事は自分たちで守らなければ」

なぜこの活動が続けるのか？という質問に潟保委員長はこう答えられました。奉仕団は今年の3月に、会員減少により解散を余儀なくされた婦人会の有志が集い、「例え人数が集まらなくても大切な活動だから続けていこう」、という意思の元、新たに「由利本荘市西目赤十字奉仕団」として結成されました。主な活動内容は炊き出しの訓練、応急処置の講習など。いざという時に周りの人を助ける為の知識や技術の習得の他、会員同士でお互いの知識を共有しあい交流することで結束を深めています。

今、時代は人口減により社会のバランスが大きく変化し続けており、防災面では「自助（自分の身は自分で守る）、共助（地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合う）、公助（市役所、消防、警察など税による公の負担）」の観点から、「公助」の縮小が避けられない状況です。そのような中、「共助」の役割が非常に重要になります。困った時に他人同士が共に助け合う仕組み



現在 24 名で活動する
西目赤十字奉仕団の皆さん

みや繋がりは、実際に災害が起きた時にすぐに機能するものではありません。人々との繋がりが希薄になりがちな現代にこそ、このような奉仕団の活動、町内会の消防団などの活動の重要性が増していきます。潟保委員長のおっしゃる通り、「地域の事は地域で守る」、西目の事は西目に住む我々こそが考え続けなければなりません。

今回の取材を通じ、私自身も改めて西目の防災について考える機会を得ることができました。「由利本荘市西目赤十字奉仕団」の皆さんの活動に心より敬意を表し、今後の活動についても注目していきたいと思っています。尚、西目奉仕団では、一緒に活動していただけのメンバーを常時募集しております。応急対応や災害対応などの、家族や仲間、地域を助ける特殊な知識や技術を楽しく学びながら交流しております。男女、年齢、地域の縛りなどなく、誰でも気軽に参加いただけます。

今年は10月19日（土）西目シーガルにて「赤十字防災セミナー」が開催されます。「食」と防災について考える、災害時に役立つ情報、炊き出し訓練、「フレイル」について一緒に学ぼう！など内容は盛りだくさん。参加費は無料、申し込み、お問い合わせは西目総合支所市民サービス課
☎33-4620まで

E-mail: nsm-service@city.yurionjo.lg.jp
※西目赤十字奉仕団へのお問い合わせもこちらへお願いいたします。